

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウィッシュ刈谷			
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 6日		～	令和7年 1月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35人	(回答者数)	35人
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 6日		～	令和7年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	外出イベントの目的地を決める際に、児童の意見を参考にしたり行った事のない場所や季節のイベントを企画したりしている。 また、平日の活動プログラムについて、児童同士の話し合いの場を積極的に設け他者との交流場面を増やすなど、人間関係構築力やコミュニケーション力の向上を目的に内容を工夫している。	保護者様、利用児童へのアンケートを引き続き行い、その時のニーズに応えられるよう検討していく。親子イベント、きょうだいイベントについても検討していく。
2	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	年齢や課題に合わせて、児童が自分自身で考え選択する機会が増えるよう支援内容を工夫している。 選択肢をいくつか用意し自分で選択できるよう支援内容を工夫している。	児童の課題や現状を職員間で共通理解し、支援に活かせるよう検討していく。
3	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	毎日朝礼を行ない、役割分担や目的について確認をしたり、前日の振り返りや児童に関する情報の共有を行っている。	引き続き情報共有を行なっていくとともに、職員同士の意見交換の場も積極的に設けられるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	コロナ禍の影響を受け機会が減り、交流しにくくなっている現状がある。	相談機関や地域住民との交流の機会を設けられるよう、時間の調整や検討をしていく。
2	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	今まで継続利用の児童が多かったため、機会が少なかった。 今年度以降、該当者が増えていく予定であり、情報提供などを行っていけるよう検討中。	保護者様や相談機関との連携を図り、お互い情報の提供や共有が出来るよう検討していく。
3	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。 また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	日の利用児童の人数が増えたことや利用児童の年齢が上がったことから、活動によってスペースの確保に工夫が必要になることがある。	子どもたちの様子や活動に応じて、臨機応変にスペースを確保できるよう、引き続き検討していく。